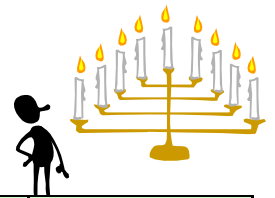


# キャンドルのつどい



## 1 活動のねらい

コミュニケーション能力	自分のことは自分でする	何事も最後までやり遂げる	リーダー性	自己をふり返り、集団を見つめ直す	自然に親しみ、環境について考える
○			◎	◎	

## 2 概要

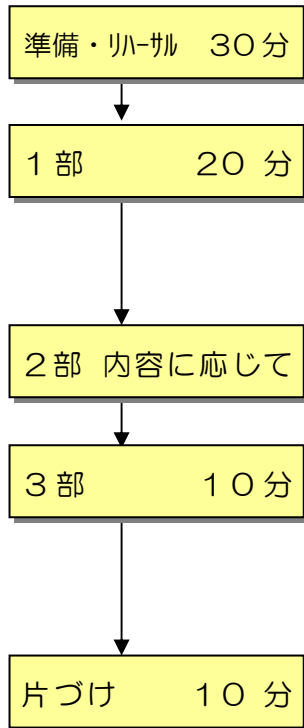


キャンドルの火を囲み、ゲーム・歌・ダンス・スタンツなどとおして、全員が心をかよわせることによって、連帯感や友情を深め、楽しい思い出をつくるとともに、研修のまとめや自己を深く見つめる機会とすることができます。

## 3 対象及び活動形態

幼児～成人（200名程度まで）

## 4 活動の流れ(例)



会場設営、役割の確認  
1・3部のリハーサル

### 迎え火のつどい

- ①はじめの言葉（火の司）
- ②女神入場（女神）
- ③火の長の言葉（火の長）
- ④分火（女神→火の守）
- ⑤燭台点火（火の守・誓いの言葉）
- ⑥献詩（朗読係）



### 交歓のつどい

（レクリエーション・出し物）  
内容は、各団体で工夫しましょう。

### 送り火のつどい

- ①燭台を囲む（全員）
- ②燭台の静火（火の長・女神）
- ③献詩（朗読係）
- ④火の長の言葉（火の長）
- ⑤女神退場（女神）
- ⑥終わりの言葉（火の司）



1・3部は**厳粛**、2部は**楽しい雰囲気**で行います。

キャンドルの係や出し物をする人は、**事前にしっかり準備**しておきましょう。

## 5 準備物

- 『青年の家』 燭台、ローソク、音響機器 等  
『団体』 体育館シューズ、小型懐中電灯、その他必要な物

## 6 キャンドルのつどいまでにしておくこと…係・役員の選出と台詞の確認・練習

役割分担例（人数）	第1部	第3部
女神（1～2）	入場・分火	静火・退場
火の長（1）	はじめの言葉	まとめの言葉
火の司（1）	ナレーター・進行	
火の守（4～8）	燭台への点火・誓いの言葉	
祈りの言葉（1～数名）	祈りの言葉	
献詩（1）	詩の朗読	詩の朗読
音響（1）	場に応じた音響調整	
女神補助（1）成人	女神の補助	